

皮膚の仕組み

の増殖に伴い、古い角質が垢となつて剥がれ落ちるといふ現象を繰り返している。このような肌の新陳代謝は「ターンオーバー」と呼ばれる。

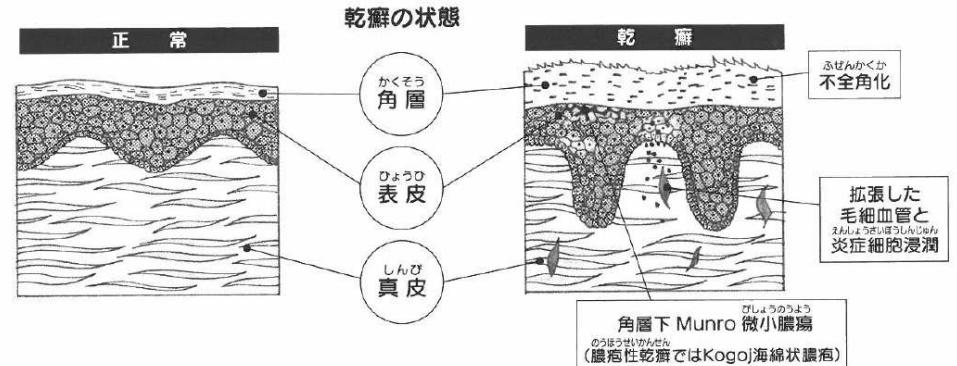
皮膚に赤みと、はがれやすいかさぶたがみられたら要注意

乾癬



函館中央病院 皮膚科 保科 大地 科長

皮膚が赤く盛り上がってきた、白い粉のようなものが落ちる...などといった場合に考えられるのが乾癬。皮膚の慢性疾患のひとつであり、かゆみなどの症状だけでなく、皮膚病変そのものの外見的变化が患者さんのストレスとなり、日常生活に多大な影響を与える。この乾癬について、函館中央病院(函館市)皮膚科の保科大地科長に解説してもらった。



乾癬の状態

「乾癬の根本的な原因はまだつかめていませんが、最近はいくつかの因子の影響を受けていると考えられるようになってきています。内的因子としては肥満や脂質異常症、糖尿病などが挙げられます。外的因子としては、感染症(かぜ、扁桃腺炎、菌血症など)、皮膚への刺激(季節的な要因(冬

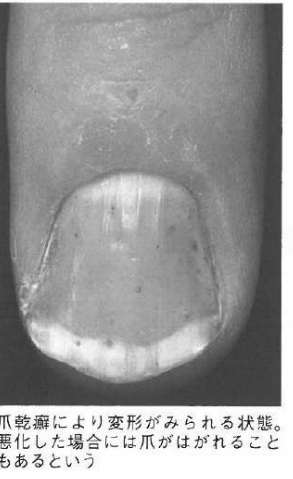


乾癬の出来やすい部位

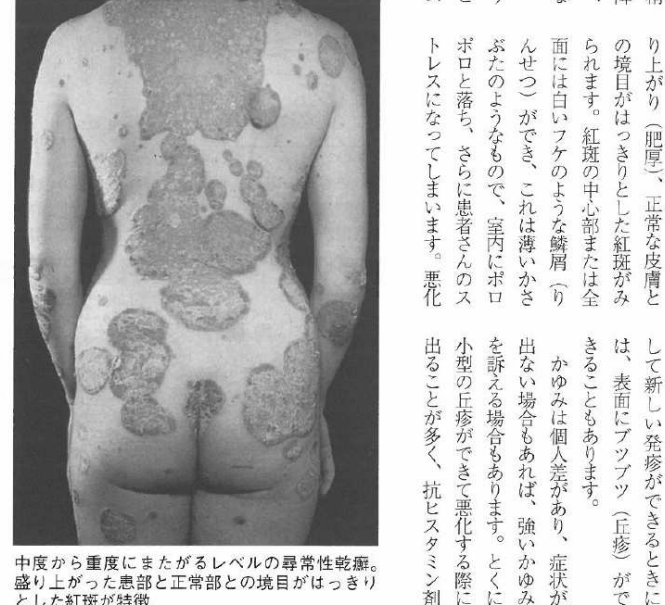
季)、飲酒や喫煙、生活環境、精神的なストレス、薬剤(一部の降圧薬、非ステロイド系抗炎症薬、インターフェロン、躁病治療薬など)が挙げられています。内的因子をみていくと、近年は増加傾向にあるといわれている。性別では男性が女性の2倍と、男性に多いのが特徴。男性の発病のピークは40歳代だが、20、30歳代の発症も少なくない。いずれにしても働き盛りの年代での発症が多くなっている。一方、女性の場合は10歳代と50歳代という2つのピークがあり、妊娠、出産を契機に発病する例もあるという。

メタボの関連も指摘される乾癬 乾癬は戦後になって増加している病気で、国内の患者数は約10万人と推計されており、近年は増加傾向にあるといわれている。性別では男性が女性の2倍と、男性に多いのが特徴。男性の発病のピークは40歳代だが、20、30歳代の発症も少なくない。いずれにしても働き盛りの年代での発症が多くなっている。一方、女性の場合は10歳代と50歳代という2つのピークがあり、妊娠、出産を契機に発病する例もあるという。

乾癬の90%が尋常性乾癬 乾癬はいくつかの病型に分けることができる。最も多いのが尋常性乾癬で、日本人の90%はこのタイプという。「尋常性乾癬は皮膚症状だけ」のタイプで、患部は赤く盛り



爪乾癬により変形がみられる状態。悪化した場合には爪がはがれることもあるという



中度から重度にまたがるレベルの尋常性乾癬。盛り上がった患部と正常部との境目がはっきりとした紅斑が特徴

日常生活上の注意点とアドバイス 乾癬は生活習慣の影響で悪化する可能性があるのに注意したい。前述したように、メタボリックシンドロームとの関連も指摘されることから、とくに食生活ではバランスの良い食事を摂ることが大切。肥満のある場合には治療が効

質を強力に抑えることで、関節炎も含めた乾癬の症状の改善が期待できる。また、ウステキスマブは乾癬の皮膚におけるIL-12/IL-23/40を、セクキヌマブはIL-17Aを阻害することによって、主に皮膚の炎症を抑える効果と、爪や関節症状の改善も期待できる薬剤という。いずれの薬剤も乾癬の皮膚と関節症状に高い有効性を示すが、高価な薬剤であるという点は看過できない側面だ。

生物学的製剤も治療の選択肢に 乾癬は、特徴的な症状とその分布を診ることで比較的容易に診断がつけられる。他の病気の鑑別が難しい場合には、皮膚の一部を採取して顕微鏡で組織検査を行うこともあるが(皮膚生検、多くは保険適用外)。

また、炎症の抑制や表皮細胞の角質化を抑制、かゆみの抑制に効果のある内服薬、飲み薬、外用薬、注射薬、光線療法が従来行われてきた基本的治療法だが、近年は生物学的製剤がさまざまな開発されており、前述の治療法で十分な治療効果が得られなかった場合に、生物学的製剤を使った治療法も行われるようになってきている。生物学的製剤とは最新のバイオテクノロジー技術を用いて開発された抗体製剤で、関節リウマチの治療でも大きな効果を見せている。乾癬治療ではアダリムマブ皮下注射、インフリキシマブ(点滴静注)、ウステキスマブ(皮下注射)、セクキヌマブ(皮下注射)といった薬剤が使われている。アダリムマブとインフリキシマブはTNF-αというサイトカイン(細胞から放出され、種々の細胞間情報伝達分子となるタンパク

効果になる場合もある。主治医の指示に従うことが大切だ。 「乾癬は重症度が高くなるほど、手厚い治療が必要になるので、できるだけ軽症のうちから治療することが大切です。かゆみがなくても皮膚の赤みと、薄いかさぶたのような鱗屑がみられるようであれば要注意。早めに専門医に相談しましょう。」

かぜを引くと乾癬が悪化するケースが多いので要注意。うがいや手洗いを心がけよう。飲み薬の中には服用を控えたほうがよいものもある。主治医の指示に従うことが大切だ。 「乾癬は重症度が高くなるほど、手厚い治療が必要になるので、できるだけ軽症のうちから治療することが大切です。かゆみがなくても皮膚の赤みと、薄いかさぶたのような鱗屑がみられるようであれば要注意。早めに専門医に相談しましょう。」

が、ナローバンドUVB療法は中波長の紫外線のうち、有効性の高い波長だけを選択的に照射することができ、乾癬に効果の高い紫外線を選択でき、繰り返し照射しても皮膚が干や皮膚の老化という悪影響を最小限にできる点もメリットです。また、照射時間もPUVAという治療法より短くて済みます。」